



2022年
令和4年2月号

狭山台公民館でワクチンの接種予約サポート実施中！

現在、新型コロナウイルス感染症の陽性者として自宅療養している方や濃厚接触者として自宅待機している方が、非常に多くなっています。

特にオミクロン株は、従来の変異株よりも感染力が強いと言われており、「いつ」「どこで」「誰が」感染するのか、「誰に」感染させてしまうのか、わかりません。
油断することなく、継続した感染対策を行っていただきますようお願いいたします。

また、ワクチン接種が完了していない方は、重症化を予防するためにも早めの接種をご検討ください。

なお、狭山台公民館でも接種券等が届いたご高齢の方で、インターネットや電話での予約が難しい方を対象に、予約のサポートを実施しています。

期間：2022年3月31日（木）まで

※土曜日・日曜日・祝日を除く
9時～12時／13時～17時

※12～13時は予約サポートを行っておりません。

持物：接種券（お持ちでない場合はご予約できません）



公民館共催事業 **ほんきっこ講演会開催報告**

あそびは大人になるじゅんぴ ～地域で見守る子どものあそび！～

11月28日（日）狭山台公民館ホールにて、NPO 法人日本冒険遊び場づくり協会代表 関戸 博樹 氏（愛称：どっくん）を講師に迎え、NPO 法人本気であそび子応援団と狭山台公民館との共催事業で「ほんきっこ講演会」を開催しました。

テーマ：「遊び」と「育ち」の関係について / 遊び場づくりはまちづくり

講演の間には、隣同士で気付きや感想を話し合いました。

- ・子どもはなぜ遊ぶのか？⇒人は未熟に生まれ、生存戦略として長く複雑に遊び育つことで、人としての「脳の力」を発達させる。環境に適応するため、後天的に育つ。「発達欲求」として目新しいもの、心身のチャレンジに関心を持つ。
- ・遊びってなに？⇒「やりたい！から始まるすべてのこと」。「あそびは主食」。子どもが自由に選び、自ら方向づけることができ、本質的に自らの動機に基づく行動。遊ぶことそのもの（プロセス）が目的。遊ぶことを通じて、「自分のモノサシ」を自身の中につくりあげていく。
- ・人は遊ぶことで「自分」をかたちづくり、人生を手作りできるようになっていく。そして、子どもは、自分自身がどう育ちたいかを知っていて、子ども自身の人生を生きる。
- ・「遊びの力」と「子どもの力」を信じれば、子どもは自ら育つ。知ることは感じることほど重要ではない。

受講者の声（アンケートより）

- ・うちの子が日々やりたがっていること、学んでいることが環境に適した成長につながっていることなんだということが理解でき、とても納得しました。子どもを見守る視点が広がったような気がします。「遊び」がいかに大切か身にしみました。本当にありがたい講演です（30代女性）
- ・大人が多い社会だと経済優先。そのために子どもがゆっくりあそぶことが保障されず、結局はみんなが苦しい生活になっていくと思います。子ども中心、あそびを大事に、たくさんの方に伝えて理解されるよう少しずつつながっていったらと思います（40代女性）
- ・講演の中で紹介した、以前プレーパークに通っていた子どもが高校生になってののんびり。それを聞いて感動のあまり、マスクの中が小さな池のように…（70代女性）

阿部記者



真剣な眼差しで耳を傾ける参加者達